



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

3月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

未来を切り拓く人に！

コロナ感染症に振り回された今年度も、最後の1ヶ月となりました。

今年度もいくつもの新しいことがありました。3、4歳児の生活発表会は、園児とは別室でのリモート参観となりました。同じ園内にいながら、園児とは目を合わせられない状態での参観となり、保護者にとっては残念さもあったことと思いますが、園児にとっては緊張感なく、保護者が見ていてくれる喜びは感じながら表現を楽しむ時間になりました。

今年度の修了児は、幼稚園卒の幼児はその全て、3年保育の幼児もその2年間で『感染症予防』の生活で送りました。できる限りの教育活動はしようと、教職員で力を合わせ、保護者の皆様にも多くのご協力をいただきながら進めてきました。振り返ってみると実は毎年が、毎日が新しい生活なのだなぁと思います。

今年度の5歳児は、2年間、地域や異学年との交流が制限されてきました。それでも数少ない交流の機会の中でたくさん考え、実際に関わることで多くのことを学んでいました。また、その5歳児から3、4歳児も学んでいます。

2月は、4歳児、5歳児それぞれに榮先生に講師をしていただいてサッカー体験をしました。体を動かすことを楽しみながら教えてもらっているその学年の子どもたちはもちろん、その周りで遊んでいる子どもたちも、じっと見ていたり、なんとなく同じような動きを試みたりしていました。直接教えていただくのは年に数回ですが、5歳児の動きが4歳児に比べると格段にスムーズであることが見て取れました。これはただ年齢が違うということではなく、教えてもらったことを遊びの中で何度も何度も繰り返し体現してきたからこそその姿です。自分でしてみたくなるきっかけとなる直接体験が、その後の成長に大きく関わってくると感じた子どもたちの姿です。

今年度のまとめの月、子どもたちがこれから先に向けて自分で「こうしたい」「こうありたい」と思うきっかけを少しでも心に残していけるようにと思っています。

今年度も多くのご不便をおかけしましたが、保護者、地域の皆様にご理解、ご協力いただきましたことに感謝しております。今年度の修了式も地域の皆様にご臨席いただけませんが、子どもたちが、未来を切り拓く心を今後ももち続けられるように、これからも温かく見守っていただければと思います。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・遊びや生活の中で、自分の思ったことを自分なりに表したり、友達の言っていることを聞いたりしながら、一緒に過ごすことを楽しむ。
 - ・大きくなったことに嬉しさを感じ、進級を楽しみにする。
 - ・栽培物の生長を喜んだり、季節の歌を歌ったりしながら春を感じる。
- 〈4歳児〉
 - ・気の合う友達と部分的にイメージを共有しながら遊ぶ中で、自分の思いを言葉で表したり、相手の思いに気持ちを向けたりしていく。
 - ・年長児になることへの期待をもち、自分の身の回りのことや学級の活動に進んで取り組もうとする。
- 〈5歳児〉
 - ・学級や学年の友達とのつながりを深め、互いの良さを認め合いながら、遊びや生活を進めていく。
 - ・園生活を振り返り、自分の成長を感じ、自信をもって行動する。

